

No.490

## モササウルス

今回は恐竜によく似た生き物の話です。モササウルス類は白亜紀後期（約9800万～6600万年前）の海や川に生きていたハ虫類で、恐竜ではなくヘビやトカゲに近いグループです。白亜紀末に恐竜と一緒に絶滅しました。全長は最大18mにもなり、体は流線形をしていて、前足と後足はヒレ状になり、泳ぐのに適した体型をしています（図1）。モササウルス類の歯は、後ろに少しカーブした先の尖った円錐形をしています（図2）。上アゴには、外側に左右一列の歯（縁辺歯）、奥の内側に左右一列の歯（翼状骨歯）があり（図3）、主に魚やアンモナイトなどを食べていたと考えられています。

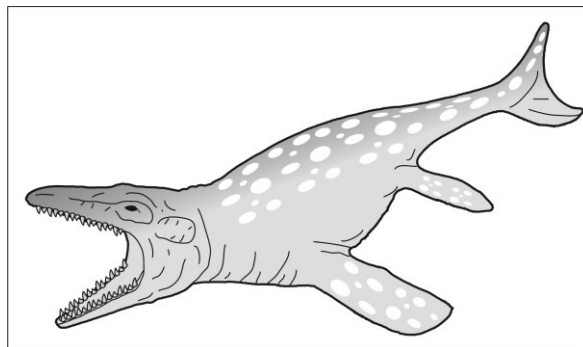


図1 モササウルス

尾の形は以前、ハ虫類のウミヘビのようにボートのオール状になっていたと考えられていましたが、近年、ヨルダンで発見された保存状態の良いモササウルス類の化石から、サメのような三日月状の尾ビレを持っていたことがわかりました。この尾ビレを使って速く泳ぎ、獲物を捕らえていたのでしょう。

富山県では見つかりませんが、日本では、北海道、大阪府、和歌山県などでモササウルス類の化石が発見されています。（藤田将人）



図2 モササウルスの歯化石

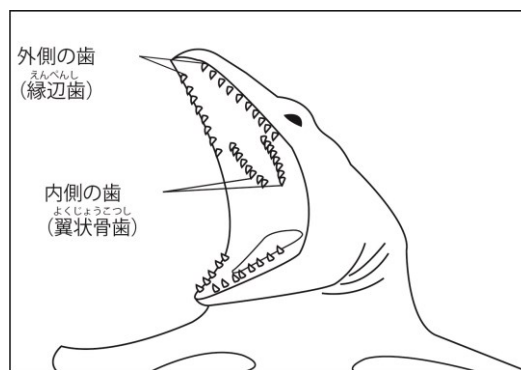


図3 モササウルスの歯の並び方

今月のかぐのギモン：

ティラノサウルスの化石からオス、メスはわかりますか？

（答えは当館ホームページをご覧ください）